

商店街で紙すき

環境部会 ケナフの会代表

生環 9期 長谷川 博

5月「ケナフの苗が欲しい」と新長田本町商店街より「わ」に電話あり。苗を持って訪問、会話の中から、8月に商店街の一角で「紙すき」をすることに合意。教室でなく、通行人対象の紙すきは初めての為、事前打ち合わせを入念に3回実施した。

8月8日(北京オリンピック開催日と後で知る)商店街の空地にテントを張り、机を並べ、電気を引き込み、水を持ち込み地元の人と9人のスタッ

フで準備万端。何人来場するか不安のスタートとなった。地元婦人会が児童館に事前に話をしていたため、まず児童約20人が来場。賑やかに紙すきをすると、通行人の関心呼び、次々と来場者があり、2時間で約50人が参加した。ケナフ会員の手による押し花で飾る八ガキ・栞を作成、栞は紐にケナフ繊維を使うと、好評で多くの方が栞に関心が集まった。当然指導しながらケナフの特徴、温暖化防止に役立つことをPR。児童には「八ガキ・栞だけでは夏休みの宿題にならない、ケナフ・温暖化防止を説明してね」

と説明。

新長田本町商店街は過去賑やかな通りであったが、今は寂しい商店街になっている。各地でシャッター通りが話題になっている、この商店街もこのままではその一つになる予備軍である。郊外の安売りの大型店に購入者が集まるが、大型店は赤字になれば簡単に撤退する。地元商店街の賑わいは、各商店の力量、商店街のアイデア、地元消費者の理解がないと戻らない。「ケナフの会」はその復活する力の助けになればと感じた1日であった。



新長田本町商店街で行ったケナフ紙すきはがき、しおり作りに集まった子ども達と通行人のみなさん

グループわ 親子で集まれ 自然あそび塾 『里山探検』

10月5日(日)“知ってる? シルバーカレッジの里山”と題して親子を誘って開いた今年の里山自然塾。当日は朝からあいにくの小雨模様だったにも関わらず、申し込まれた親子の大半が参加されての開催。雨で足元が悪かったこともあり、里山には踏み込めずほんの入り口からの観察に留まったが、「里山ってどんなん? 普通の山とどう違うん?」「へー そうなんや、山や森は人が管理・整備しないと山が荒れ、ふも



との人だけでなく海の漁師さんも魚が減って困るんや...」など興味深い話に聞き耳を...

お話のあとは環境部会の里山グループ、アイナくらぶ、花山梅林会など多くの皆さんの手で集め、準備されたどんぐりなどの木の实、木の葉、小枝、つるなどを使っていろいろな工作をして楽しみ、それぞれ自慢のお土産に仕上げ持ち帰ってもらった。これをひとつのきっかけに、もっともっと親子で自然に親しむ機会を広げていってもらえればと願いながら今回の自然塾を終了した。

